《教育相談　自立支援教室「あけもどろ学級」》

「かかわる力」や「ふり返る力」を育成するための支援の工夫

～個々の実態に応じた体験活動の充実と学校との協働連携を通して～

那覇市立壺屋小学校教諭　石川　巴美

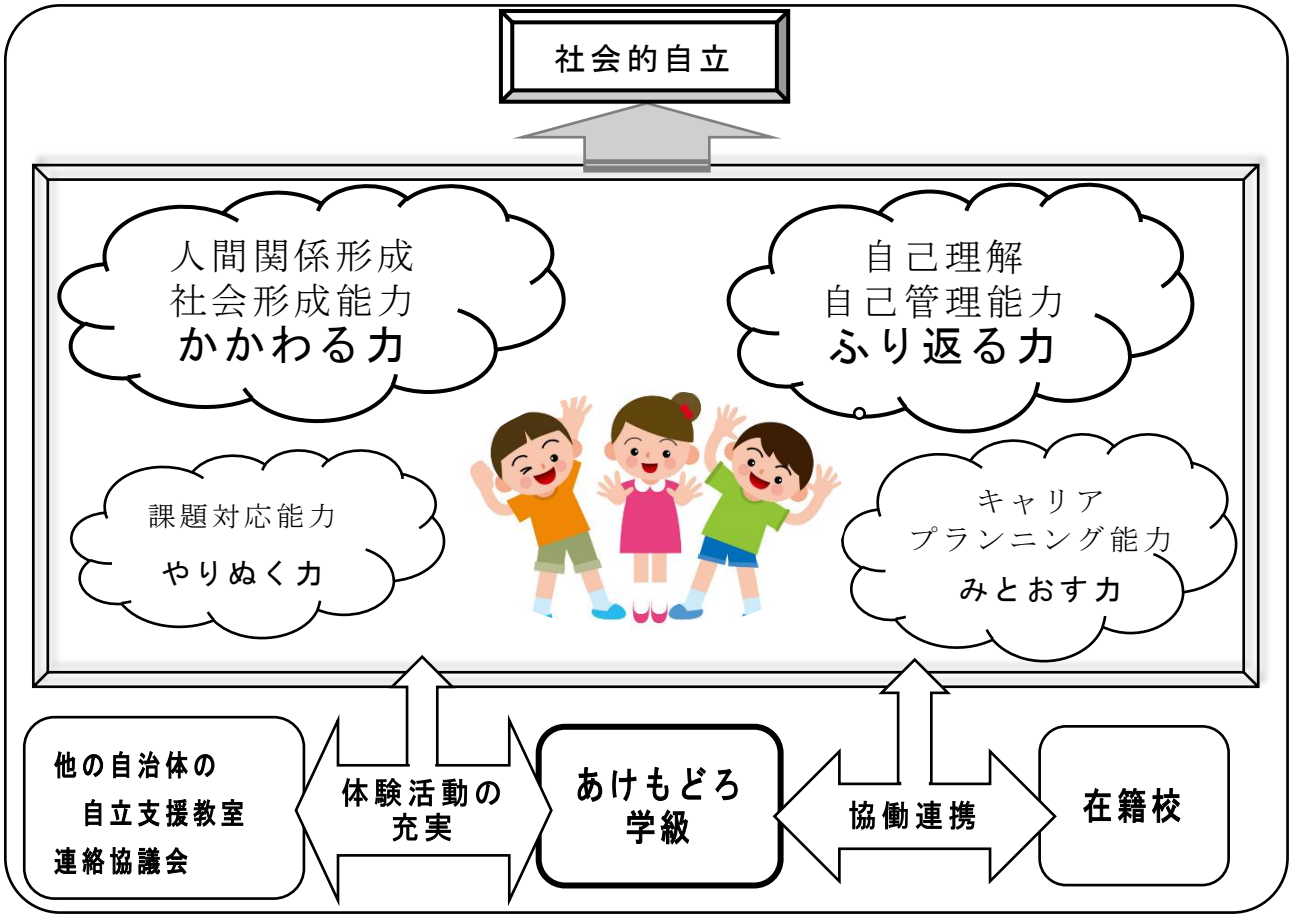
〈研究の概要〉

今年度の自立支援教室「あけもどろ学級」には，９名の生徒が入級している。あけもどろ学級を担当し不登校生徒と関わる中で，他者とコミュニケーションをとることが苦手な生徒や，自己肯定感が低い生徒が見られ，キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」のうち，「かかわる力」「ふり返る力」に課題があることが分かった。また，昨年，教育支援センター等連絡協議会に加盟している各教室の情報共有の中で，学校が多忙で担任の先生と連絡が取りづらい，学習課題や評価の調整が難しい，不登校児童生徒と学校とのかかわりが薄い等，学校との連携が課題に挙がっていた。

本研究では，生徒の興味や特性に応じた体験活動や交流体験を通して，様々な経験を積むことや他者と関わる機会を設定した。また，学校との連携を密にし，行事の日程や内容を確認したり，どのような方法で行うと生徒が安心して活動することができるのかを話し合ったりすることで，個々の実態に合った支援を行った。

その結果，生徒が他者と関わることが楽しいと感じることができたり，スモールステップで成功体験を積み重ね，自己肯定感が高まったりしたことで，「かかわる力」「ふり返る力」を育むことができたと考える。

〈研究のイメージ〉



目　次

Ⅰ　テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

Ⅱ　研究目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

Ⅲ　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
　１　基本仮説
　２　作業仮説

Ⅳ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

Ⅴ　研究内容と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
　１　「かかわる力」「ふり返る力」について
　２　「かかわる力」「ふり返る力」を高める体験活動の充実
　　(1) 自立支援教室「あけもどろ学級」の活動
　　(2) 教育支援センター等連絡協議会の体験活動
　３　学校との協働連携について

Ⅵ　結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
　１　あけもどろ学級の生徒について
　２　作業仮説(1)の検証　　【結果】〈検証１〉〈検証２〉【考察】
　３　作業仮説(2)の検証　　【結果】【考察】

Ⅶ　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
　１　成果
　２　課題

《主な参考文献》

《教育相談　自立支援教室「あけもどろ学級」》

「かかわる力」や「ふり返る力」を育成するための支援の工夫
～個々の実態に応じた体験活動の充実と学校との協働連携を通して～

那覇市立壺屋小学校教諭　石川　巴美

Ⅰ　テーマ設定の理由

生徒指導提要では,『不登校で苦しんでいる児童生徒への支援の第一歩は，将来の社会的自立に向けて，現在の生活の中で,「傷ついた自己肯定感を回復する」,「コミュニケーション力やソーシャルスキルを身に付ける」,「人に上手にＳＯＳを出せる」ようになることを身近で支えることに他なりません。』と示されている。また，キャリア教育において児童生徒に身に付けさせたい力「基礎的・汎用的能力」には「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の４つの能力があり，一生涯を通じて育成すべき能力であり，社会人に求められる能力であるとされている。さらに，沖縄県キャリア教育の基本方針では，４つの能力を「かかわる力」,「ふり返る力」,「やりぬく力」,「みとおす力」と設定している。このことから，コミュニケーション能力を身に付けることや自己肯定感を高めることが大切だと考えられていることが分かる。

那覇市は，心理的・情緒的不安が要因で登校できない子ども達に安心できる居場所を与え，自主性や社会性の育成と人間関係の改善を図り，社会的自立を促進するために，教育委員会教育相談課に自立支援教室「あけもどろ学級」を設置している。

今年度の自立支援教室「あけもどろ学級」には，９名の生徒が入級している。あけもどろ学級を担当し不登校生徒と関わる中で，特に，他者とコミュニケーションをとることが苦手な生徒や，経験不足から自己肯定感が低い生徒が見られ,「かかわる力」「ふり返る力」に課題があることが分かった。また，昨年，教育支援センター等連絡協議会に加盟している各教室の情報共有の中で，学校が多忙で学級担任と連絡が取りづらい，学習課題や評価の調整が難しい，不登校児童生徒と学校とのかかわりが薄い等，学校との連携が課題に挙がっていた。それぞれの生徒の人間関係の改善を図り，自己肯定感を高めるためには,人と関わるような体験活動や達成感を味わえるような経験が大切である。個々の実態に応じた支援を行うと共に，一人一人が安心して活動に参加し，様々な体験をすることができれば,コミュニケーション能力や自己肯定感が高まるのではと考える。つまり，不登校の解決に向けてキャリア教育の視点を踏まえた力を身に付けさせることが効果的だと考え次の２つの方策に取り組む。１つ目は，生徒の興味や特性に応じた体験活動や交流体験を通して，様々な経験を積むことや他者と関わる機会を設定する。２つ目は，学校との連携を密にし，行事の日程や内容を確認したり，どのような方法で行うと生徒が安心して活動することができるのかを話し合ったりすることで，個々の実態に合った支援を行う。

そこで，本研究は，以上の２つの方策で支援の工夫を行うことで，不登校生徒の「かかわる力」や「ふり返る力」を育成することができ，社会的自立への一歩となるだろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

生徒一人一人の「かかわる力」や「ふり返る力」を育成するために，個々の実態に応じた体験活動の充実及び学校との協働連携について実践的に研究する。

Ⅲ　研究仮説

1　基本仮説

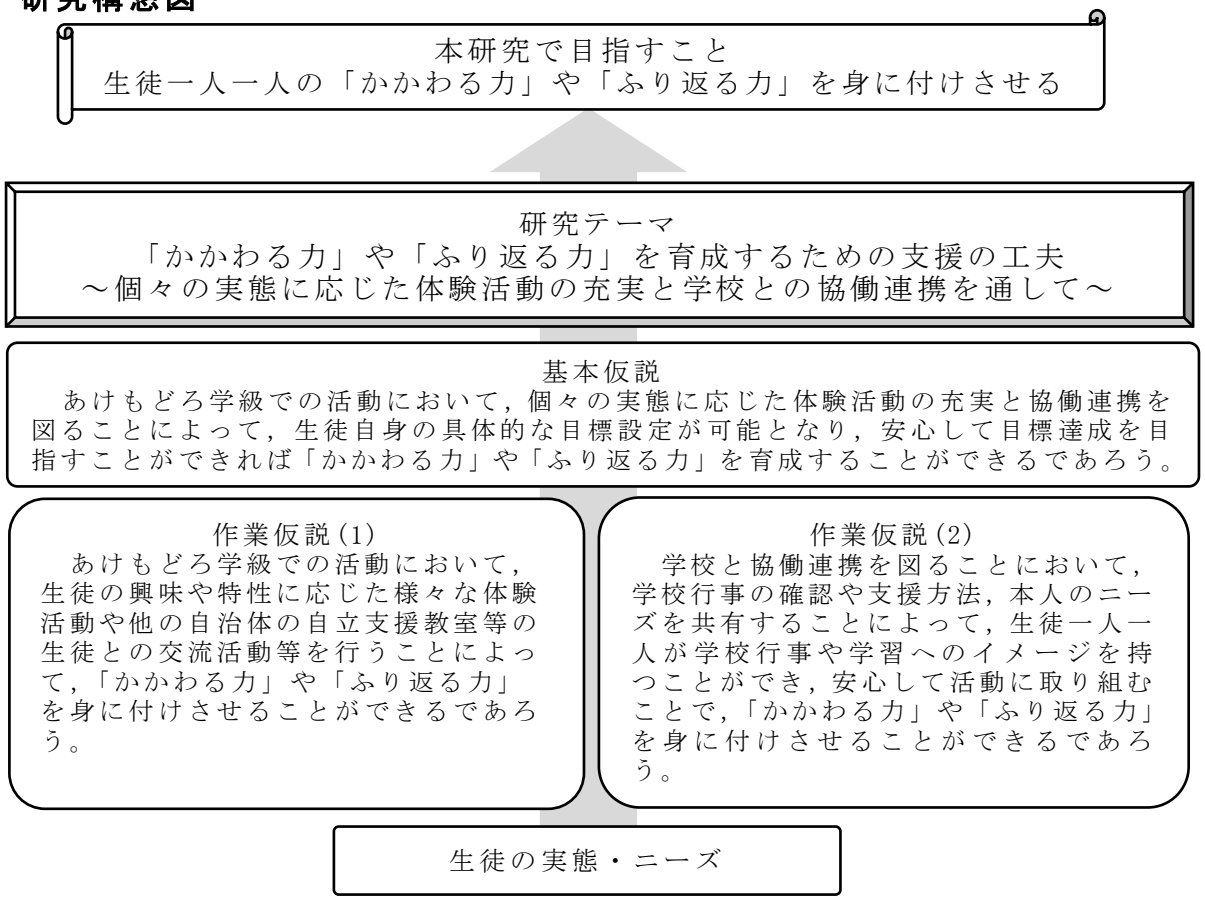
あけもどろ学級での活動において，個々の実態に応じた体験活動の充実と学校との協働連携を図ることによって，生徒自身が他者との関りや活動内容のイメージを持つことができ，安心して活動に取り組むことができれば「かかわる力」や「ふり返る力」を育成することができるであろう。

2　作業仮説

(1) あけもどろ学級での活動において，生徒の興味や特性に応じた様々な体験活動や他の自治体の自立支援教室等の生徒との交流活動を行うことによって，「かかわる力」や「ふり返る力」を身に付けさせることができるであろう。

(2) 学校と協働連携を図ることにおいて，学校行事の確認や支援方法，本人のニーズを共有することによって，生徒一人一人が学校行事や学習へのイメージを持つことができ，安心して活動に取り組むことで，「かかわる力」や「ふり返る力」を身に付けさせることができるであろう。

Ⅳ　研究構想図



Ⅴ　研究内容と方法

１　「かかわる力」「ふり返る力」について

沖縄県キャリア教育の基本方針では，キャリア教育の目標の達成や「目指す児童生徒」を育成するために，児童生徒に身に付けさせたい力として，次のように設定されている(表１)。

表１　キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」

人間関係形成・社会形成能力 かかわる力	自己理解・自己管理能 ふり返る力	課題対応能力 やりぬく力	キャリアプランニング能力 みとおす力
①多様な集団の中で他者と関わる力 ②進んで考えや気持ちを伝え合う力 ③人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心 ④協力する力 ⑤社会に参画し，社会を積極的に形成する力　など	①行動を振り返り，改善につなげる力 ②自己の役割を理解する力 ③情報・助言を正しく理解し自分を見つめる力 ④自分の良いところを見つめる力 など	①問題を発見できる力 ②問いを立てる力 ③課題に対応した計画を立案する力 ④計画を実行する力 ⑤発想(想像)する力 ⑥間違いや他人との違いをおそれない力 ⑦最後までねばり強くやり通す力　　など	①将来を想像する力 ②自分の目標を設定する力 ③目標設定の為に計画を立てる力 ④立てた目標を確認し次につなげる力 ⑤自ら主体的に判断して，キャリアを形成していく力　など

あけもどろ学級の生徒と関わる中で，他者とコミュニケーションをとることが苦手で，自分の思いや考えを上手く伝えることができないことから，他者に関心がなく，生徒同士の関りがないことが課題と感じた。そこで，キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」４つの力のうちあけもどろ学級の生徒は，特に他者と関わる力や自分の考えを伝え合う力等の「かかわる力」や自己肯定感を高めるために自分の良いところに気づく等の「ふり返る力」を身に付けることが，社会的自立への一歩に繋がると考える。

２　「かかわる力」「ふり返る力」を高める体験活動の充実

「かかわる力」「ふり返る力」を高めるために，あけもどろ学級での活動・他の自治体の自立支援教室との交流会・教育支援センター等連絡協議会主催の体験活動において，どのような力が身に付くかを明確にした。身に付ける力を明確にすることで，生徒が目標を持って活動に取り組み自分の成長を感じることができると考えた。

(1) 自立支援教室「あけもどろ学級」の活動

①あけもどろ学級の１日の流れ

表２　　１日の流れ(表１参照)

	月～水	木	金	キャリア教育で身に付けさせたいカ
9:00～9:20	ウォーミングアップタイム	スポーツ活動［かかわる力①④］	ウォーミングアップ	かかわるカ①②
9:20～9:30	朝の会		朝の会	みとおすカ②
9:30～10:15	ステップアップタイム		ステップアップ	やりぬくカ③⑦
10:15～10:25	リフレッシュタイム		リフレッシュ	
10:25～11:10	チャレンジタイム		チャレンジ	やりぬくカ③⑦
11:10～11:20	リフレッシュタイム		リフレッシュ	
11:20～11:50	リラックスタイム		リラックス	かかわるカ①②
11:50～12:00	帰りの会		帰りの会	ふり返るカ①④
12:00～13:00	お弁当タイム			かかわるカ①ふり返るカ④
13:50～13:50 14:00～14:50	スタディタイム （月～木曜日）			やりぬくカ③⑦
14:50～15:00	帰りの準備，帰宅			

あけもどろ学級は，月曜日から金曜日まで活動を行っている。朝の会では，それぞれが今日のめあてを決めて発表することで［みとおす力②］を身に付けさせる。ウォーミングアップタイム・リラックスタイムでは，カードゲームやボードゲーム等を通してコミュニケーションをとることで［かかわる力①②］を身に付けさせる。ステップアップタイム・チャレンジタイム・スタディタイム(午後は実態に合わせて)では，その日の学習内容を自分で決めて，学校の課題や自主学習，読書等の学習に取り組むこと

で［やりぬく力③⑦］を身に付けさせる。帰りの会では，それぞれが１日の振り返りを行い，がんばったこと等を発表することで［ふり返る力①④］を身に付けさせる。また，毎週木曜日は，教育相談に通っている児童生徒と一緒にバドミントンや卓球等スポーツ活動を行っている。あけもどろ学級以外の児童生徒と関り，チームでプレイすることで［かかわる力①④］を身に付けさせる(表２)。定期的に行っている体験活動においても［かかわる力］［ふり返る力］を身に付けさせる(表３)。

表３　体験活動と「かかわる力」「ふり返る力」の関連（表１参照）

活動内容
・カードゲーム，ボードゲーム(かかわる力①②)　・水槽掃除(かかわる力④)　・農業体験(かかわる力④) ・スポーツ活動(かかわる力①④)・対馬丸記念館見学(かかわる力③)　・夏休み子ども体験教室(かかわる力①)
・イラスト(ふり返る力④)　・思春期教室(ふり返る力③) ・クリスマスクッキング(ふり返る力②)　・図書館利用〈若狭，ほしぞら〉(ふり返る力③)

②他の自立支援教室との交流活動

他の自治体の自立支援教室の生徒と交流活動を行い［かかわる力］を身に付けさせる(表４)。

表４　交流内容と「かかわる力」「ふり返る力」の関連（表１参照）

教室名	設置者	内容	キャリア教育で身に付けさせたい力
しののめ教室	島尻教育研究所	クッキング(クレープ作り) 卓球、カードゲーム　等	かかわる力①④
しののめ教室 とびうお教室 とよむ教室 ハート教室	島尻教育研究所 糸満市教育委員会 豊見城市教育委員会 南城市教育委員会	スポーツ活動 ・バドミントン　・ボッチャ ・ソフトバレー　・卓球　等	
あけみお学級	名護市立教育研究所	カードゲーム,ボードゲーム　等	

(2) 教育支援センター等連絡協議会主催の体験活動

①教育支援センターとは

教育支援センター(適応指導教室)とは，不登校児童生徒の集団生活への適応，情緒の安定，基礎学力の補充，基本的生活習慣の改善等のための相談・指導(学習指導を含む)を行うことにより，その社会的自立を目指すことを目的としている。

②沖縄県教育支援センター等連絡協議会

沖縄県教育支援センター等連絡協議会に加盟している適応指導教室や自立支援教室は，離島も含めて県内 14 教室ある。「適応指導教室等及び関係機関相互の連携を図り，指導方法及び組織・運営の在り方等の情報交換を行うことで，不登校児童生徒への対応に寄与すること」を目的に，加盟している教室の担当者で，月に１回教育支援センター等連絡協議会が実施されている。

教育支援センター等連絡協議会では，適応指導教室や自立支援教室に通級している児童生徒を対象にした交流会が計画されている(表５)。

表５　沖縄県教育支援センター等連絡協議会の活動内容（表１参照）

事業名	日時	場所	内容	キャリア教育で身に付けさせたい力
いきいき自然体験キャンプ	9/3 - 5	国立沖縄青少年交流の家	宿泊	かかわる力①ふり返る力①
			野外炊飯	かかわる力④ふり返る力②
			海洋体験　　など	かかわる力③④
スポーツ交流会	11/ 1	県総合運動公園体育館	ドッジビー 五色綱引き　など	かかわる力①②④
体験活動	12/ 6	総合教育センター多目的棟	植物工場で野菜を育てよう 真鍮キープレートの作成 レーザー加工体験　　など	ふり返る力③④
活動展示報告会	1 /22	総合教育センター多目的棟	学級紹介 作品展示	かかわる力④ふり返る力②④

生徒の興味や特性に応じて様々なことを体験させ自信に繋げることやあけもどろ学級以外の同年代の生徒との交流も楽しいと思えるような交流活動を行うことによって，多様な集団の中で他者と関わる力等の「かかわる力」や自分の良いところを見つめる力等の「ふり返る力」を身に付けさせることができると考える。

3　学校との協働連携について

『生徒指導提要(令和４年 12 月)10．4．2学校と関係機関の連携における留意点』では,「学校が関係機関を利用する場合，まず必要なのは，不登校児童生徒が何に困っているか，どのような関りを必要としているかを正確にアセスメントすること」「外部機関とつながってからも，丸投げに終わるのではなく，学校と関係機関が責任を分け持つことが大切」と示されている。

昨年，教育支援センター等連絡協議会に加盟している各教室の情報共有の中で，学校が多忙で学級担任と連絡が取りづらい，学習課題や評価の調整が難しい，不登校児童生徒と学校との関りが薄い等，学校との連携が課題に挙がっていた。

つまり，自立支援教室担当として，不登校児童生徒一人一人の実態に合った支援を行うためには，学校，特に学級担任との連携は必要不可欠である。

入級決定後，学校を訪問し学級担任と，児童生徒の実態や課題の提出方法，今後の連絡方法について話し合う。入級してからは，毎月「あけもどろ 活動状況報告書」で活動内容や出席状況を学校に報告する。テスト前にはテスト範囲や課題内容を共有したり，行事への参加の仕方を相談したりして，学校ができることとあけもどろ学級でできることの共通理解を図る。そうすることで，学校と協働して不登校児童生徒への支援を行い，生徒一人一人が学校行事や学習へのイメージを持つことができ，安心して取り組むことが可能となる。学校行事に参加し他者と関わることで「かかわる力」が身に付き，運動会や修学旅行で自分の役割を果たすことで「ふり返る力」を身に付けさせることができると考える(表６)。

表６　学校行事と「かかわる力」「ふり返る力」の関連（表１参照）

活動内容（キャリア教育で身に付けさせたい力）
・運動会(かかわる力①ふり返る力②)　・合唱コンクール(かかわる力①) ・修学旅行(かかわる力①④ふり返る力②③④)

Ⅵ　結果と考察

1　あけもどろ学級の生徒について

今年度，あけもどろ学級には９名の生徒が入級している。１学期は，あけもどろ学級になれることを目標に活動してきた。２学期は，スモールステップで成功体験を増やし自己肯定感を高めることを目的に，生徒とコミュニケーションをとりながら，生徒一人一人の実態に合った目標設定を行った。

今年度，半数の生徒が 12 月以降に入級。よって，10 月までに入級した生徒を中心に事例を抽出する。

2　作業仮説(1)の検証

あけもどろ学級での活動において,生徒の興味や特性に応じた様々な体験活動や他の自治体の自立支援教室等の生徒との交流活動等を行うことによって,「かかわる力」や「ふり返る力」を身に付けさせることができるであろう。

【結果】

検証１＜生徒の興味や特性に応じた様々な体験活動＞

図１　ボードゲーム

図２　クリスマスクッキング

図３　活動展示報告会

あけもどろ学級での ウォーミングアップタイムやリラックスタイムでカードゲームやボードゲーム等を行ったり，農業体験で野菜を育てたり，毎週木曜日に実施している相談チームとのスポーツ活動に参加することで，同年代の生徒との関わりを楽しむことができた。クリスマスクッキングでは，自分たちで協力して計画・実践したことで楽しみながら協力して活動することができた。「おすそ分けした人達に喜んでもらえてよかった」と振り返りに書いている生徒もおり，喜んでもらえたことで達成感を味わうことができた。また，教育支援センター等連絡協議会主催のスポーツ交流会，体験活動交流会，活動展示報告会にも参加することができた。スポーツ交流会では，じゃんけん列車やドッジビー，五色綱引きを行った。五色綱引きでのチームの作戦タイムでは，自分の考えを伝えることもできた。体験活動交流会では，自分の好きな体験活動に参加し，様々なことを学んだり，作品を作ったりして楽しむことができた。活動展示報告会では，自分たちの作品を展示したり，大勢の前で学級の様子を紹介したりすることができた。朝の会や帰りの会で司会をしたり，めあてやがんばったこと等を発表したりしてきたことで，人前でも発表することができたと考える。

体験活動を通して変容したＢさんの事例（表７）（表８）。

表７　Ｂさんの実態と目標

生徒	実態	目標
Ｂさん（中２） 〔入級：５月下旬〕	・小６の１月頃から不登校。 ・主たる理由：集団が苦手。休んだら行けなくなった。 ・前年度定期テストは学校の別室で受験。	・月１回登校する。 ・コミュニケーションをとる。

表８　Ｂさんの事例

Ｂさんの様子	Ｂさんの振り返り
・自分の思いや考えを伝えることが苦手。 ・質問しても頷いたり首を傾げたりする。 ・返事をするときは「忘れた」「覚えてない」又は，単語で答える。 ・表情が変わらない。 ・他者に関心がなく，一緒に活動している生徒の名前を覚えていない。 ・生徒同士コミュニケーションを取ろうとしない。 ・９月のいきいき自然体験キャンプに参加。 ・交流活動への参加率は低い。 ・登校は，テストと面談のみ	１学期の振り返り 〔キャリア教育で身に付けたい力〕 ・渡嘉敷でのキャンプでは，みんなでカヌーを漕いで島へ行ったり，カレーを作ったりしたのが心に残っている。〔かかわる力〕 ・２学期は，他の教室との交流をやってみたい。〔かかわる力〕 ・２学期はみんなとコミュニケーションを取るようにする。〔かかわる力〕
目標「学校の課題をやる。集中して学習する。」	入級して成長したこと

・一緒に活動している生徒の名前を覚えている。 ・活動中，自分の感情を言葉や表情で表現するようになった。 ・まだ自分から話しかけることはうまくできないが，相手の質問に単語ではなく文章で答えるようになった。 ・学級担任との活動を楽しむことができ，少し学校へ意識が向いた。	〔キャリア教育で身に付けたい力〕 ・「月１回学校に行く」「コミュニケーションを取る」という目標を立てることができた。 〔ふり返る力〕 **・学校でＵＮＯを先生とやって楽しかった。** **〔かかわる力〕** **・活動展示会や交流活動に参加できた。** **〔かかわる力〕**

あけもどろ学級担当としての支援と振り返り　○担当教師の支援　☆生徒の変容

【かかわる力】
○朝の会で，［日直→Ａさん→Ｂさん］のようにリレー方式で健康観察を行った。
○めあてや振り返りの発表は，日直に指名させた。
☆全員の名前を呼ぶ機会を設けたことで，**あけもどろ学級全員の名前を覚えることができた。**
○毎日の活動にカードゲームやボードゲームを取り入れた。
○定期的に農業体験やスポーツ活動を行った。
☆生徒同士が関わる機会を設けてきたことで，**笑顔が増え，感情を言葉や表情で表すことができるようになってきた。**
○クリスマスクッキングは，計画・買い物も自分たちで行わせた。
☆自分が担当する**お菓子の作り方を友達に教える**場面が見られた。
【ふり返る力】
○目標設定の際，どのような目標を立てたらよいか困っていたため，Ｂさんが苦手なことや身に付けてほしい力を伝えたり，一緒にこれまでを振り返ったりし，その中で自分ができるようになりたいことや苦手だけど少しがんばればできそうなことを一緒に考えた。
☆これまでの自分を振り返り、**苦手なことや改善したいことを目標にしてがんばった**自分を認めることができた。

検証２＜他の自治体の自立支援教室等の生徒との交流活動＞

９月３日(火)から５日(木)に行われた，教育支援センター等連絡協議会のいきいき自然体験キャンプに生徒３名が参加した。２泊３日，他の自治体の自立支援教室の生徒と宿泊をしたり様々な活動を共にしたりして，交流を行ったことがきっかけで，いきいき自然体験キャンプ後，生徒から「次はいつ会えるかな」「また交流してみたい」という話が出た。そこで，他の自治体の自立支援教室等の担当教諭に相談し，交流会を実施した。１回目は，いきいき自然体験キャンプで活動を共にすることが多かった島尻教育研究所「しののめ教室」との交流会。クレープ作りをしたり，人狼ゲーム，卓球をしたりして過ごし交流を深めた。自分達から積極的に話をすることはほとんどなかったが，「しののめ教室」の生徒が話しかけてくれて一緒に活動できたことで同年代の友達と関わることが楽しいと感じることができ，他の自立支援教室等の生徒とも交流したいと思えるようになった(図４)。そこで，２回目は，「しののめ教室」から誘われて，年に５回行われている島尻地区のスポーツ交流会に参加させてもらった。糸満市教育委員会「とびうお教室」，豊見城市教育委員会「とよむ教室」，南城市教育委員会「ハート教室」の生徒とソフトバレーやバドミントン等で体を動かすことを通して交流することができた。「しののめ教室」の生徒とはキャンプも含めて３回の関りを持つことができ，交流を深めることができた。「しののめ教室」の生徒と会うことができるので教育支援センター等連絡協議会主催の活動に参加することが楽しみと思えるようになった(図５)。３回目は，名護市立教育研究所「あけみお学級」との交流。

図４　しののめ教室交流会

図５　島尻地区４教室交流会

図６　あけみお学級交流会

カードゲームやボードゲームをして交流することができた。特に，普段関わることが少ない小学生とも過ごすことができ,上級生として優しく接することができた(図６)。

他者と関わることが苦手で，様々な体験活動や交流活動に前向きではなかった生徒が，いきいき自然体験キャンプに参加したり，他の自治体の自立支援教室等の生徒と様々な体験活動を共にしたりしたことがきっかけで，同年代の友達との交流を楽しむことができるようになった。

交流活動を通してＣさんの事例(表９)(表 10)。

表９　Ｃさんの実態と目標

生徒	実態	目標
Ｃさん(中２) 〔入級：10 月上旬〕	・小６教室に馴染めず別室登校，中１別室登校経て夏頃から不登校。集団，学習に抵抗あり。 ・主たる理由：身体の不調。 ・前年度英語のみ定期テストを別室受験。	・学校の課題をやる。 ・英語検定を受ける。 ・あけもどろ学級で集中して学習する。

表 10　Ｃさんの事例

Ｃさんの様子	Ｃさんの振り返り
・入級前，入級当初は，集団，活動，学習に強い抵抗を示す。 ・あけもどろ学級担当だけでなく，相談担当や保護者が試行錯誤しながら体験活動に参加させてきた。 ・学校の課題はほとんど取り組んでいない。 ・相手の気持ちを考えての発言が苦手で，自分の考えを一方的に伝える場面も見られる。 ・登校は三者面談のみ。学級担任との会話はなく，学級担任が声を聞いたことがないと話していた。 ・自分のがんばりを認めることができない。	<u>１学期の振り返り</u> 〔キャリア教育で身に付けたい力〕 ・がんばったことは,「夏休み子ども体験教室」の５日間参加したこと。 〔ふり返る力〕
目標「学校の課題をやる。集中して学習する。」 ・集団活動に参加することを拒否しなくなった。 ・活動に参加した後「楽しかった。」と話すようになった。 ・計画を立てて学校の課題に取り組むようになった。また，分からない問題も自分で解こうとする姿が見られるようになった。 ・笑顔が増え，相手のことを考えて発言することができるようになった。 ・登校し，２学期の期末テストを別室で受け，給食も食べることができた。 ・少しずつ自分の成長に気付くことができるようになってきた。	<u>入級して成長したこと</u> 〔キャリア教育で身に付けたい力〕 ・あけもどろ学級の行事やスポーツ等の活動に参加するようになった。 〔かかわる力〕 ・最初の時よりも，楽しんで活動に参加できるようになった。〔かかわる力〕 ・学校の課題に取り組んだ。 〔ふり返る力〕

あけもどろ学級担当としての振り返り　　○担当教師の支援　☆生徒の変容

【かかわる力】
○交流活動当日，参加拒否で休みの連絡があったため，家まで迎えに行った。
○嫌なことや不安に思っていることを聞き出し，一つ一つ対応策を話し合った。
☆渋々ではあるが参加するこができ，**誰よりも早く打ち解け交流することができた**ことで，自信に繋がった。
○様々な体験活動や交流活動を計画。不安なことをその都度確認し，話し合った。
☆今でも「活動に参加するのは基本的に嫌」と話しているが，活動後の振り返りで「楽しかった」と話すことから，**楽しんで活動に参加できるようになった**。
○様々な体験活動や交流活動を行い，一緒に活動しながら他者と関わる機会を多く設けた。
☆笑顔が増え，**相手のことを考えて発言**したり，**困っている人がいるとさりげなく助けたりする**こができるようになってきた。また，**学級担任と会話をすることができた**ことから，コミュニケーション能力が身に付いてきた。
【ふり返る力】
○褒めても「別に」「がんばったことはない」と話す等，自己肯定感が低かったため，その都度，以前の行動や発言を思い出させながら，がんばっていること，成長していることを伝え続けた。
☆１月には，**肯定的な返事**が返ってきた。自分の**成長を認め，振り返りに書くことができた**。

【考察】

様々な体験活動を行ったことで，自分の思いや考えを表現できるようになったり，体験活動や交流活動に前向きではなく渋々参加していた生徒達が，活動を終える度に「楽しかった」と話すようになったりしていった。その経験を繰り返し行うことで，少しずつ他者に関心を持つようになり,他者との関りを「楽しみ」「またやってみたい」と思えるようになった。更に，学級担任や学校の別室登校している生徒との関りにも興味を持つことができたことから，コミュニケーション能力を高めることができ「か

かわる力」が身に付いたと考える。また，緊張から「嫌だ」と思いながら活動に参加しても，実際にやってみると「思っていたよりも楽しめた」「自分にもできた」と感じ達成感を味わうことができたことで「ふり返る力」が身に付き，苦手な活動にもチャレンジしてみようという前向きな姿勢が見られるようになった。

3　作業仮説(2)の検証

学校と協働連携を図ることにおいて，学校行事の確認や支援方法，本人のニーズを共有することによって，生徒一人一人が学校行事や学習へのイメージを持つことができ，安心して活動に取り組むことで，「かかわる力」や「ふり返る力」を身に付けさせることができるであろう。

【結果】

入級決定後，それぞれの生徒の学級担任と顔合わせを行った。その際，生徒の状況や今後どのように支援していくか等について共有した。また，昨年の「学校が多忙で担任の先生と連絡が取りづらい」という反省から，今後の連絡方法を相談し連絡先を交換することで，学級担任と直接連絡が取れるようにした。そうしたことで，学校行事の日程や支援方法，課題，テスト範囲等をその都度確認することができた。協働連携を図ることで，修学旅行に前向きではなかった生徒の不安を少し解消することができ，修学旅行に参加することができた。また，テストや面談以外で登校することがなかった生徒が月に１回学校で活動したり，面談のみ登校していた生徒がテストを受けて給食まで学校で過ごしたりすることができた。それぞれの生徒が活動のイメージを持ち安心して活動に取り組めたことで，「自分にもできる」と自信がつき，前向きに様々なことにチャレンジしようとする姿勢が見られるようになった。

学校との協働連携を通して変容したＡさんの事例(表 11)(表 12)。

表 11　生徒の実態と目標

生徒	実態	目標
Ａさん(中２) 〔入級：５月下旬〕	・小６夏休み明けから別室登校を経て不登校。 ・主たる理由：不安等情緒的混乱。 ・前年度定期テストは学校の別室で受験，行事は見学。	・学校行事になるべく参加する。 ・漢字検定を受ける。 ・あけもどろ学級に休まず通級する。

表 12　Ａさんの事例（修学旅行に向けて）

Ａさんの様子	Ａさんの振り返り
・自分の考えや思いを伝えることが苦手 ・質問しても頷いたり首を横にかしげたりする。 ・他者に関心がなく，生徒同士コミュニケーションを取ろうとしない。 ・９月のいきいき自然体験キャンプに参加。	１学期の振り返り〔キャリア教育で身に付けたい力〕 ・キャンプでしののめ教室の生徒と仲良くなれた。〔かかわる力〕 ・２学期は，他の教室とスポーツやゲームをして交流したい。〔かかわる力〕
目標「学校行事になるべく参加する」 ・合唱コンクールや運動会の見学を行うことができた。 ・修学旅行は不安が大きくあまり前向きではなかったが，修学旅行に参加することができた。「楽しかった。また行きたい」と後日嬉しそうに話をしていた。 ・学校行事以外でも，他の教室と交流し同年代の生徒との交流を楽しめるようになった。 ・自分の意見を少しずつ伝えたりすることができるようになってきた。	入級して成長したこと 〔キャリア教育で身に付けたい力〕 ・修学旅行が嫌だったけど，行って楽しめた。〔ふり返る力〕 ・他の教室と交流したいと思えた。〔かかわる力〕 ・自分の意見がちょっとずつ言えるようになった。〔かかわる力〕 ・自分の成長したところを見つけられるようになった。〔ふり返る力〕 ・目を見て話せるようになった。〔かかわる力〕

あけもどろ学級担当としての振り返り　　○担当教師の支援　●学校の支援　☆生徒の変容

○夏休みに学校訪問。学級担任と今後の行事(運動会，合唱コンクール，修学旅行)について確認。特にＡさんが不安に感じている修学旅行について話をした。
●実行委員用の資料を準備して下さり，それを基にＡさんに事前に伝えておいた方がいいことを確認。
○資料を基にＡさんと班や係について確認。その際，不安に思っていることを聞き出した。
例えば，「集団行動に疲れたらどうしよう。最終日の自由行動で一緒に行動できる友達がいない」等。
○不安に思っていることを学級担任に伝え，対応方法を相談。
○自由行動については，Ａさんに，別室登校している生徒と行動することができないか提案。
●学級担任に相談し，交流ができる別室を用意してくれた。
○学校で別室登校している生徒と交流する時間を設定し，カードゲームや給食で交流させた。

【かかわる力】
☆「集団行動も班行動もできた。」「自由行動は，別室登校しているメンバーで乗り物に乗ったり，お土産を買ったりして楽しかった。」
【ふり返る力】
☆「行く前に不安なことを確認して，どう対応できるかを知って安心した。」「不安になった時は誰に話をするかも決めていた。」「乗り物に乗ろうと並んでいる時嫌な気持ちがあったけど，楽しもうと気持ちを切り替えることができた。」
学校と協働連携できたことで，Ａさんが修学旅行に参加し楽しむことができたことは，自信に繋がり，他者と関わる力や情報・助言を正しく理解し自分を見つめる力が高まったと考える。

【考察】

学級担任と直接連絡を取れるようにしたことで,相談や日程調整がスムーズにでき，生徒が何に困っているのか，どのような関りが必要かアセスメントし，協働連携を図ることができ，生徒がイメージを持ち安心して活動に参加できた。Ａさんの「修学旅行が嫌だったけど，行って楽しめた」「自由行動も楽しかった」等の言葉からは「かかわる力」が身に付き，「不安になった時は誰に話をするか決めていた」「楽しもうと気持ちを切り替えることができた」等の言葉からは「ふり返る力」を高めることに繋がったと考える。また，これまでテストと面談以外で登校することがなかった生徒が「学校で先生とＵＮＯをすることができて楽しかった。またＵＮＯをしたい。」と話していたことや，これまで学習に強い抵抗があった生徒が「学校の課題に取り組んだ」と自分のがんばりを認めることができたことで，コミュニケーション能力や自己肯定感が高まり，「かかわる力」「ふり返る力」が身に付いたと考える。

Ⅶ　成果と課題

１　成果

(1)　事前に対象生徒が不安に思っていることを確認し，対応策を講じたことで体験活動や交流活動に参加することができ，集団や他者との関りが苦手だった生徒が，同年代の生徒と楽しんで関わる等「かかわる力」が身に付いてきた。

(2)　生徒の興味や特性に応じた様々な体験活動を行うことで，活動に前向きではなかった生徒が，活動を繰り返しスモールステップで成功体験を積み重ねたことで「ふり返る力」が身に付いてきた。

(3)　生徒の声を引き出し，学校，特に学級担任と連携したことで，体験活動や交流活動を通して，自分の立てた目標を達成する喜びを味わうことができた。

２　課題

(1)　入級決定後に通級できなかった生徒や途中入級(特に 12 月以降)の生徒に対して，支援が不十分だったと感じた。相談担当や保護者，学級担任と連携を密にし，実態把握を早めに行い，個に応じた計画的な支援の工夫が必要。

(2)　中学３年生の進路決定に向けた年間スケジュールや中学校の実態を把握し，見通しを持って事前の計画を行うことが重要。

《主な参考文献》

『生徒指導提要』　文部科学省　2022 年
『沖縄県キャリア教育の基本方針』　沖縄県教育委員会　2020 年
『不登校児童生徒への支援の手引き』沖縄県教育庁　義務教育課　2020 年
『沖縄県教育支援センター等連絡協議会資料』沖縄県教育支援センター等連絡協議会 2024 年